

プレス空知 2019年7月

今回は、ピアノを早く上達させる方法についてお話したいと思います。

今の大学生は、大学の授業もたくさんありますし、それに伴ってレポートを書いたり、専門のピアノの練習だけではなく、伴奏や室内楽などのアンサンブルの練習もあり、さらにアルバイトもある、というたいへん忙しい日々を送っているようです。また、私が、かつて、東京の自宅で音楽教室を主宰していた時、中学生になると定期試験やクラブ活動でピアノの練習時間が激減して、結局やめてしまう生徒もいました。ピアノは、当然ですが、練習をしなければ上達しない楽器で、練習時間の確保がとても大事になります。

しかし、絶対的に練習時間が足りない、でもピアノは続けたい、という場合、どんな練習をしたらいいのでしょうか。それは、できるところは、1日1回しか弾かない、できないところを早く見つけ出し、番号をつけて1日1項目だけを集中して、15分くらい部分的に練習する。ということです。そのためには、部分的に弾けないところがあっても、気にせず、一定のテンポで1曲を弾きとおします。当然弾けない部分がありますが、どこが弾けないのかを気にしつつ、とにかく、全曲弾いてみるのです。一般的に多くのピアノ教師は、できないところに合わせて、ゆっくり練習しなさいということが多く、大学生になっても、そのように練習する学生がたくさんいます。でも、ある程度ピアノを続けている人は、練習をしなくても弾ける部分も多いのです。つまり、弾けるところをゆっくり弾かなくてもよく、できないところは、できないことを自覚し、そこの部分だけを取り出して練習できるように、その部部を記憶しておくことが大事です。

私のレッスンでは、早いうちから正規のテンポ(作曲家が指示したテンポ)で、弾くことを推奨しています。すると、できない部分が明確にあぶりだされます。あぶりだされた部分を短い時間集中して練習し、いつまでに弾けるようにするか、自分で目標をたてます。今日は弾けなくても、3日後には弾ける、というように。たとえば、できない部分が10ヶ所あったとします。全部弾けるまでには膨大な時間がかかると悲観したくなりますよね。しかし、最初の1つ目ができると、後のほうは、その半分以下の時間で弾けるようになるのです。この方法は、かなり成果を上げています。学生たちや、かつての忙しくなった中学生が、短い時間で曲を完成させられるようになっていきます。

だまされたと思って、この方法で練習してみましよう。曲を選ぶときも、自分に弾けるレヴェルより少し上の曲に挑戦してみるといいと思います。この方法で練習して、上達して、達成感を得ることが、上達への近道です。ダメなところは、真摯に受け止め、上達したなど感じたなら、自分を褒めることをお勧めします。苦しいばかりの練習は、心のためにもよくありません。弾きたい曲が、毎日の短い時間の練習で、弾けるようになる練習方法が身につくと、膨大に存在するピアノの名曲をたくさん弾けるようになります。

ただ、この方法は、超初心者～小学生くらいまでの学習者には向いていません。やはり、初心者はある一定の練習時間が必要で、練習する習慣をつけなければなりません。